

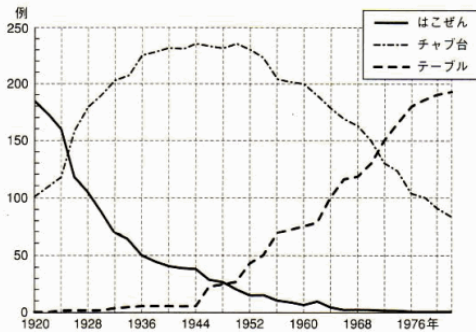


シンポジウム<家族の絆における食の大切さ>資料

時代	食事のスタイル	食事の会話	社会背景	主要産業
江戸以前 江戸	<膳 (折敷など)>  <膳 (折敷など)> <箱膳 (銘々膳)>		家父長社会 (武士階級を中心に)	80~50% 第1次産業
明治 1868~ M20 (1887) M31 (1898) M40 (1907)	土間の流し、膳棚、囲炉裏の間など、江戸時代の延長線上にある住居空間。家族の距離が遠い。必ずしも家族が一緒には食事をしない。  	<ちゃぶ台>  茶の間 (畳の間。食事の場であり、布団を敷く場でもある) を中心とする都市の住居空間と結合する食卓。皆で卓を囲むため、大皿などの共食器が発達。和洋折衷の文化。	基本的に会話禁止 (仮にあって、話題の中心は家長)	
大正 1912~ T12 (1923)		茶の間 (畳の間。食事の場であり、布団を敷く場でもある) を中心とする都市の住居空間と結合する食卓。皆で卓を囲むため、大皿などの共食器が発達。和洋折衷の文化。 明治期の知識人の間で、自由主義を基礎とした“家族団欒”を期待する声がある。家族の距離が近くなる。	家制度 (民法上の家父長制) の制定 対象年齢児童がほぼ全員小学校に就学 核家族率55%	
昭和 1926~ S22 (1947)			食事作法の躰  S14(1939)~S20(1945) 第二次世界大戦 1943~1947 食糧難時代	30~60% 第3次産業
S30 (1955) S41 (1966)	高度経済成長前期 高度経済成長後期	<ダイニングテーブル>  台所に隣接した板の間に置かれ、箱膳やちゃぶ台と異なり、椅子座にて食事をすする。調理と食事の場の一体化。  	食事作法の躰  55年体制、三種の神器「電気冷蔵庫・電気洗濯機・白黒テレビ」  S31(1956)~ 憧れの公団住宅 (ダイニングキッチン) の普及によりダイニングテーブルの普及促進。衛生面からの「寝食分離」の住居思想もこの流れを後押し。  S44(1969) 「サザエさん」のテレビ放映開始。カラーテレビの普及 S45(1970) ファストフード元年 (ド・ム・ル・ガ・ー・ケ・タ・キ・フ・イ・ト・キ)	
S50 (1975)		電気こたつ(1956~)に機能をゆずる	会話自由 (話題の中心は母子)	
平成 1989~			学習塾の普及 / 核家族率64%でピーク 電子レンジの普及 個食・孤食の問題  同じライフスタイルを共有できる家族の終焉と、個人を単位とする社会への移行	

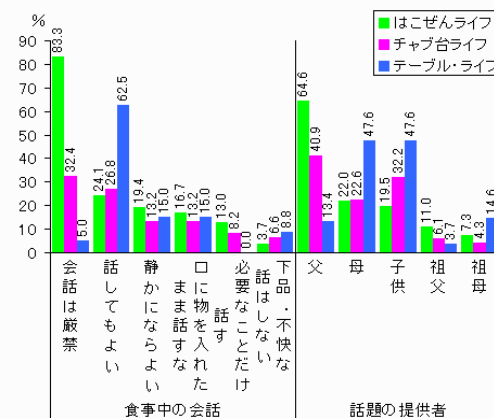
日本人の食卓の変遷



(注) 原則として70歳以上の女性を主な対象として1983~84年に実施された「食卓生活史の聞き取り調査」による。筑波大学、花園大学、甲南大学、奈良女子大学の学生の祖母など284人に「1.お膳(箱膳など)、2.ちゃぶ台(しっぽく台、飯台など)、3.椅子式テーブルなど」のそれぞれの時期を聞いた調査結果である。

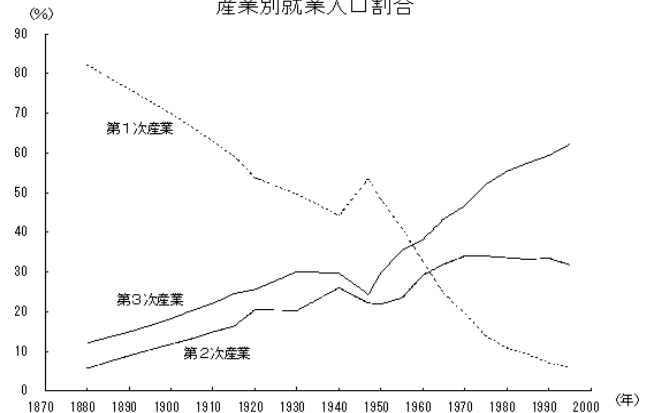
(資料) 石毛直道「食卓文明論」中公叢書(2005年)

食卓を囲む会話



(資料) 石毛直道「食卓文明論」中公叢書(2005年)

産業別就業人口割合



資料出所: 1879年~1915年「明治以降本邦主要経済統計」(日本銀行)  
1920年~1935年「国勢調査」(総務省)  
1947年以降国勢調査の数値